

## 武内 節夫(たけうち せつお)先生のプロフィール

日本大学駿河台病院助手・消化器外科・臓器移植の研究を経て、  
沼津市立病院外科医長、国立甲府病院外科医長、  
駿河台日大病院外科外来・病棟医長 講師に。

昭和49年 旗岡診療所 開業  
平成16年クリニック・アミカル 開業

専門科目：消化器疾患、運動器疾患、肛門疾患、  
アレルギー疾患、老人性疾患



### ◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

45年前医師となり、父の診療所で中谷義雄先生の良導絡・ノイロメーターに出会い、  
鍼治療を始める。

その後、開業時に漢方エキス剤42方剤が、薬価基準に  
収載されたのを機会に、鍼を含め、  
東洋医学の本格的な勉強を始める。

その勉強会として山口県東洋医学研究会を発足させ、  
これが日本東洋医学会の県支部に発展している。

### ◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

運動器疾患に漢方と針の併用で効果を上げている。  
その他、アレルギー疾患特に花粉症の治療については、  
多くの患者さんから信頼を得ている。  
高齢者の急性・慢性疾患にも多用している。

### ◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

35%が漢方薬で、西洋薬との併用は日常的に行っている。  
平素単独で用いる方剤は後世法の方剤が多い。

急性感染性疾患には、抗生剤との併用が多く、  
西洋薬の補完するものとして使用するケースもかなりある。

又、体質的なものには単独で用いる事が多い。



◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

少子高齢化、経済の低成長、人口減少の我が国の今後をみた場合、当面疾患として生活習慣病の対策が中心となろう。

しかし、医療費にも限界があり、東洋医学の考え方や代替医療として経済面から漢方がクローズアップされる事になるのではと考えている。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

感冒性胃腸炎で吐き気が強く腹痛があり苦しんだが、その時、五苓散服用で20分後には全く症状がとれ、サッパリした経験がある。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

臨床経験を重ねることが重要であるが、基礎である古典を含む生薬学(医師が遅れている)、方剤学(傷寒論)、理論(素問)の勉強は不可欠である。

臨床では方剤の方意が理解出来たものから少しずつその適応(証)のあるものに用い、その結果を検証しながら進めるのが良いと思う。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方方剤は、自然物であり人間もまた自然物である。それによる治療も考え方も3000年にわたり自然から学んだものであり、人間の持つ自然治癒力を最大に生かした治療法である。

◆座右の銘、お好きな言葉などありましたら教えてください

温故知新

◆その他のご意見をお聞かせください

漢方また、東洋医学の研究は登山と同じで色々なルートがあり、それぞれの方法論(流派)を用い、山頂に挑んでいる。

したがって、目的は同じであるのでお互いが共生・協調の立場で望むべきであると考えている。

注意:先生へのインタビューは、当会が2006年5月に行った内容です。

